

福島大学にて 語流暢性検査を受けた方へ

この度、福島大学で行った検査情報等の一部について、他の研究機関で実施される下記研究に対し提供を行います。本研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意を得るかわりに、利用目的等を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

この研究課題に対し検査情報等を利用することにより、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、ご自身の診療情報等を利用・提供して欲しくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用・提供して欲しくないことを申し出られても、なんら不利益を受けることはございません。

1. 対象となる方

2000年5月1日より2005年3月31日までの間に、
精神疾患患者の認知機能評価のための研究に参加された方

2. 試料情報の提供のみを行う者の機関名・所属・氏名

機関名: 福島大学

所属・氏名: 人間発達文化学類 住吉チカ

3. 試料情報の提供を行う研究課題名と研究代表者又は研究責任者

研究課題名: 統合失調症早期患者の社会機能的転帰の予測指標の長期調査

研究期間: 倫理委員会承認後～2028年3月31日まで

研究代表者(研究責任者): 国立精神・神経医療研究センター 吉村 直記

(試料・情報を取り扱う機関)

福島大学 住吉 チカ

4. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

試料: なし

(取得方法)

情報等: 語流暢性課題発話データ、基本情報(年齢、性別)

(取得方法) 研究データからの二次利用

5. 試料・情報の利用目的及び利用方法

精神疾患患者の多くに認知機能障害が見られます。認知機能の中でも意味記憶の構造化は、生活の質まで含めた機能的転帰(自立した生活、労働、娯楽などの社会的予後)と関連することが報告されています。精神疾患患者においては、意味記憶の構造化の推定に実験的手法は適さず、その代わりに一般的な認知機能検査バッテリーに含まれる語流暢性課題の発話が用いられます。

手法の制約などから、意味記憶の構造化と機能的転帰との関連を個人レベルで調べられませんでした。しかし近年、様々なテキストマイニング手法が開発され、個人レベルでの意味記憶構造化を調べることも可能になりました。そこで本研究では、語流暢性課題による意味記憶の構造化の関連について、テキストマイニングの手法を用いて検討することを目的とします。この研究により、患者それぞれに合わせたリカバリーに向けたフィードバックを提供できるようになると考えられます。

本研究課題は、福島大学が国立精神・神経医療研究センターに健常者データを提供し、2次利用します。そして、患者の記憶の組織化の水準を健常者と比較することができるようになります。提供を行う際には、研究計画に従い、年齢や性別の個人情報加工処理を行った上で、対象となる方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱います。

6. 問い合わせ窓口

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

機関名: 福島大学

所属: 人間発達文化学類 氏名: 住吉チカ

電話番号 : 024-548-8161

e-mail: sumiyoshi※educ.fukushima-u.ac.jp (「※」を「@」に変更ください。)